

インドタミールナドゥ州の北東モンスーン降水にあたるENSO (エルニーニョ南方振動) とインド洋ダイポールの影響

V. Geethalakshmi (タミールナドゥ農業大学)

K. Palanisamy (タミールナドゥ農業大学)

谷田貝亜紀代 (総合地球環境学研究所)

梅津千恵子 (総合地球環境学研究所)

インドタミールナドゥ州の雨季は10月から12月で、北東モンスーン降水 (NEMR) といわれるものによっている。このNEMRの開始と総降水量は農業と経済に重要な影響を及ぼす。タミールナドゥの南西モンスーン (SWMR, 6-9月) は南方振動指数 (SOI) と正の相関がありNEMRはSOIと負の相関があるのは興味深い。そこで、NEMRによるタミールナドゥの降水量とグローバルシグナルであるエルニーニョ南方振動 (ENSO) とインド洋ダイポールとの関係を調べた。その結果タミールナドゥのNEMRは7月のNino-3 SSTと最も高い相関が見られた。ここで、Nino-3の海面温度 (SST) が高いときNEMRは多いことになる。一方、インド洋ダイポールを示す海面温度とは、有意な相関は見られなかった。また、SOIと地域的な降水とを関連させる大気循環構造を把握するため、SOIが高いとき、低いときについて対象地域周辺の水蒸気輸送構造についてあわせて示した。